

## 1 ブロイラーに発生した鶏マイコプラズマ病

○後藤新平・高橋祥子・遠藤裕久 (岐阜アグリフーズ株)  
ゴトウシンペイ

### 【はじめに】

鶏マイコプラズマ病は、*Mycoplasma gallisepticum* (MG) や *Mycoplasma synoviae* (MS) により引き起こされる慢性的呼吸器病で、MG や MS の単独感染での病原性は弱く、ブロイラーでは、他の呼吸器病や大腸菌症等との混合感染で発育不良や気囊炎による廃棄の原因となると言われている。今回、抗生素や抗菌剤を全く使用しないで飼育するブロイラー農場 3 戸において、同一種鶏(チャンキー)からの MG 介卵感染によると思われる重篤な鶏マイコプラズマ病の発生がみられたので、その概要を報告する。

### 【発生の概要】

A 農場 : H 棟 (2015 年 10 月入雛 : T 種鶏場 : 27,336 羽)、3 号 (2015 年 11 月入雛 : T 種鶏場 : 9,690 羽)、4 号 (2015 年 11 月入雛 : T 種鶏場 : 9,690 羽) の 3 鶏舎において、33 日齢ごろから鼻汁、流涙、開口呼吸、異常呼吸音等の呼吸器症状を出しはじめ、40 日齢ごろから死鳥増加がみられた。

B 農場 : K 棟 (2015 年 12 月入雛 : T 種鶏場 : 15,504 羽) において、30 日齢ごろから呼吸器症状を出しはじめ、同日齢から死鳥増加がみられた。

C 農場 : 1~5 号 (2016 年 1 月入雛 : T 種鶏場および S 種鶏場 : 27,540 羽) において、24 日齢ごろから呼吸器症状を出しはじめ 44 日齢ごろから死鳥増加がみられた。

### 【結果および考察】

A, B, C 農場共に、肺、気管等から PCR 法で MG 遺伝子が検出され、細菌検査で MG が分離された。また、MG 急速凝集反応は陽性で、鶏マイコプラズマ病と診断された。

死亡率は H 棟 (1,341/27,336 羽 : 4.9%)、3 号 (492/9,690 羽 : 5.1%)、4 号 (843/9,690 羽 : 8.7%)、K 棟 (1,616/15,504 羽 : 10.4%)、C 農場 (535/27,540 羽 : 1.9%) で、食鳥検査における全廃棄率は、H 棟 (2,083/25,662 羽 : 8.1%)、3 号 (701/9,142 羽 : 7.7%)、4 号 (897/8,722 羽 : 10.3%)、K 棟 (1,236/13,580 羽 : 9.1%)、C 農場 (349/26,887 羽 : 1.3%) であった。なお、他の孵化場から導入された鶏群 (A 農場 : 10 群、B 農場 : 9 群) では、A 農場に最後に導入された 2 鶏群において水平感染と思われる発生がみられた。

A, B 農場では 3 週齢時に NB (ニューカッスル病と鶏伝染性気管支炎混合) 生ワクチンを投与しており、このことや寒冷感作等の要因が本病を誘発し、大腸菌症の混合感染により症状が重篤化したものと考えられた。C 農場では NB 生ワクチンの投与を止め、保温と換気に努めたところ、比較的軽度な症状で推移した。

(本症例の概要は平成 28 年度日本産業動物獣医学会(中部地区)で発表した。)